

岡山大学 2025 年度入試 英語 分析表

全体分析

| | | | | | |
|--|----|------|------------|------|----|
| | | | 試験時間 120 分 | | |
| 問題量 (昨年比) | 減少 | やや減少 | 同程度 | やや増加 | 増加 |
| 難易度 (昨年比) | 易化 | やや易化 | 同程度 | やや難化 | 難化 |
| <p>講評</p> <p>例年と形式面などで大きな変化は見られず、日々の取り組みが反映されやすい問題であった。試験時間にも不足はなく、日頃から正確に内容を理解することに取り組んでいる受験生にとっては取り組みやすい問題であった。</p> <p style="text-align: right;">森田 雄大</p> | | | | | |

大問ごとの分析

| 大問番号 | 設問の分析・解答上のポイント |
|-------|---|
| 第 1 問 | <p>本文語数は 803 語で、Dana G. Smith, A peek inside the brains of ‘super-agers.’ The Japan Times, April 30, 2024 からの引用であった。本文のレベルは標準的なものと言える。段落ごとに内容をまとめていけば戸惑うことはなかった。高齢になっても元気な人々についての話であるが、過去英検 2 級の長文にも出題されたことがある。とはいえ岡山大学はあまりトリッキーな話題を出題することはなく、そこまで前提知識を必要としないことがほとんどである。特筆すべきは問 3 の問題である。本文で直接の言及はないが、今後の展開を論理的に考えて予測できることを考察させる問題はかつてセンター試験の第 4 問 (2018 年まで) の最終問題の定番であった。また共通テスト 2023 年第 6 問最終問題なども彷彿とさせるものである。2 次試験の対策が大切だからマーク形式の問題を軽んじるといった不誠実な学習を行うのではなく、問題の形式に関わらず段落ごとに内容をまとめ、論理展開を意識し、難しい表現は後の文から内容を推測するなどといった地道な作業に習慣的に取り組むことが重要である。</p> |

| | |
|-----|---|
| 第2問 | <p>本文語数は1013語で、Dan Ariely, Predictably Irrationalからの出典であった。procrastination（先延ばし）に関する長文であった。この語彙は英検1級相当の単語として扱われることが多いが、岡山大学の出題の狙いは1級の語彙まで覚えていることではないはずだ。実は同様の話題はセンター試験2012本試験の第6問でも扱われていた。この時の狙いは抽象的内容を具体例から読み取れるかを問うものであり、語彙の知識を前提にしているものではない。そのように心構えをしておくことで、未知の語彙が出てきても焦らず対処できるはずだ。個々の問題を概観していく。設問1ではSVCの理解が問われていた。また、3は共通テストで近年よく見られている具体的状況に当てはめて考えてみる能力が問われていた。5は説明問題に見えるが、実質的にはほぼ英文和訳に近いものだった。設問4の比喩の理解がやや難しいが、文構造をきちんと把握していれば対応できたはずだ。大問1の分析でも述べたが、日々出会う文章に対して一つ一つわからないところを潰していくことが最大の受験対策である。</p> |
| 第3問 | <p>英語表現しやすいように、日本語の翻訳をしていく意識が必要である。和文英訳で高得点を狙うためには、自分の知っている表現にいかにも日本語を寄せていけるかである。そのためには日々基礎英文を覚え、その表現がどのような場面で使われるかを調べ、添削を受けていくことが重要である。</p> |
| 第4問 | <p>昨年度の岡山大学の自由英作文は「大好きな先生」であり、今年度は「本学で学びたいことは何か」というテーマであった。自由英作文においてはその場でなんとかしようとするのではなく、定型のテーマについて書いたことがあり、模範解答もある程度頭に入っているという状態に試験本番までに持って行くことが重要である。市販の参考書やネットサービスでも定番のテーマとその解答例は入手できる。その答案の論理展開を参考にし、自分の解答を書き、添削指導を受けていくことが重要である。</p> |